

サステイナブルスクールの先生に会いに行こう!

Vol.2



サステイナブルスクールには、子どもたちとともに持続可能な未来に向けて行動する先生の存在が欠かせません。学校自体の変革にも先生方の存在が大きく関わっています。そんなサステイナブルスクールの先生へ、今回根掘り葉掘りいろんなことを聞いてみました。先生方の原動力はどこからきているのでしょうか？



箕面こどもの森学園／大阪府

福田 麻衣
FUKUDA MAI

■ 学校での役割について教えてください。

常勤スタッフ（低学年担当）

■ 先生になった理由を教えてください。

大学を卒業し、様々な子どもたちと関わっていく中で、私は彼らの気持ちに寄り添える大人でいたいという想いが強くありました。特に、心の器を形成していく、就学前～低学年の子どもたちの気持ちに共感したり代弁したりする中で、存在を認め、自己肯定感を育むことに力を注いでいきたいと思ったからです。

■ 箕面こどもの森学園とESDとの出会いを教えてください。

箕面こどもの森学園は、NPO法人立の、市民が作った学校です。立ち上げ時より、子どもたちの学びにとって大人はどう在るのがいいか、ということを探し続け、手作りで学校を創り続けてきたことが、実は全てESD活動に繋がっていた、という形でした。また、ユネスコスクールへの加盟や、サステイナブルスクールに認証いただいたことも大きな支えとなり、持続可能な社会づくりへの理念や実践が、学園全体へも浸透していったように感じます。

■ 福田先生とESDとの出会いについても教えてください。

箕面こどもの森学園は、「どこを切ってもESD」な状態を目指し活動し続けているため、はっきりとした出会いはありません。ただ、学園における、対話の仕方、物事の決定の仕方、テーマ学習（※）への取り組みなどから、民主的に生きているスタッフや子どもたちの姿を目にしたことが、ESDとの出会いだったのかもしれない。

※「世界を知り、自分の生き方を考える」をテーマに、様々な社会課題を取り上げ、自分は何を選びどう行動していくか、ということ学び合う、本学園のカリキュラムです。





■ 福田先生が日々大切にしていることを教えてください。

こどもを観察することから始めたいと思い、日々過ごしています。こどもの学びや成長は、目に見えて測れないところが多くあります。学習の中でも、日々の生活や友だち関係の中でも、こどもの感情の動きや、行動の奥にあるこどもの心に目を向けるようにしたいと思っています。テーマ学習においては、世界を知り自

分の生き方を考えるうえで、こどもたちの心が動く瞬間を大切にしています。そういった心の動きから、当事者意識が高まり、個人が変容していくことにつながっていくと考えているからです。

■ 福田先生の目指す未来はどのような未来ですか？ 将来どんな社会に生きていたいですか。

違いを認め合える社会を目指しています。人はみな凸凹を持っていて、それを認め合える未来だと思っています。自分の「べき」や、価値観にとらわれず、あなたはそう考えるんだねと、

お互いに認め合える社会は、温かく、それぞれに自分らしく生きやすい。そういった社会を作っていく一員として、生きていたいです。

■ 「サステイナブルスクールの先生に会いに行こう！」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。

持続可能な未来のために、教育を通してできることはどんなことか、私たちが手探りの中で活動してきました。ゼロから作り上げる作業だからこそその楽しさ、難しさもひしひしと感じています。しかし、スタッフ間の対話をベースに考え続ける過程こそが持続可能である、とも感じています。この過程や、こどもたちとの学

びの時間を楽しんだり、面白がったり、探求したりする大人の姿が、きっとこどもたちにも伝わっていると思います。「教育する」「考えさせる」ということを手放し、一人の等身大の自分として、こどもたちと共に考え学ぶ姿勢を大切にしたいと思っています。

事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年(以下、国連ESDの10年)の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて」と題する報告

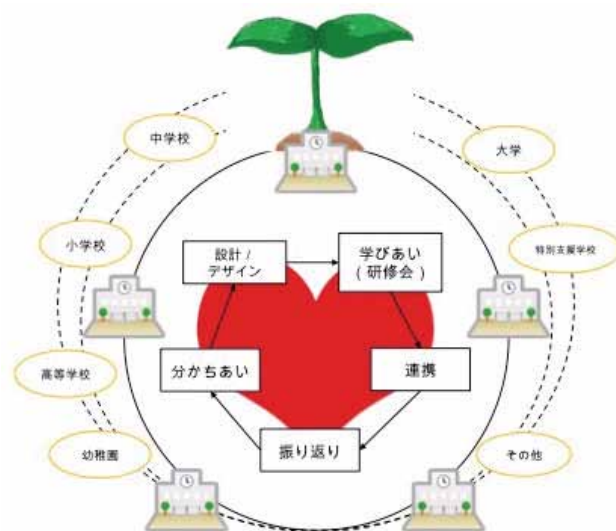
書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる(実践力を高める)ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりが変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は、文部科学省より「平成28年度日本/ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。平成30年度からは「ESDの深化による地域のSDGs推進事業」と名前を改め、補助事業として活動を進めています。

ESD重点校形成事業とは？



ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい(研修会)→連携→振り返り→分かちあい→設計/デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校(以下、サステナブルスクール)に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



サステナブルスクール形成の目的

1. 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
2. 他のサステナブルスクールの成果を自校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
3. サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
4. サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
5. 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

関連資料のご紹介

※ 送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

「ひと目でわかるESD 推進事業ガイド」

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施するESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいか分からない方などESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。



(日・英)

「キラリ発進！サステイナブルスクール—ホールスクールで描く未来の学校」

本冊子は、平成28年度及び平成29年度日本／ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け実施したESD重点校形成事業の制作物です。通称サステイナブルスクールとして認定されている24校、各校の取組や本事業の軸となっているホールスクールアプローチについてまとまっています。この一冊を通して、「新しい学び」が全国に広がっていくことを心より願っています。



公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ (UNESCO, 国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。

現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。

〈お問い合わせ先〉



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル
TEL : 03-5577-2852 FAX : 03-5577-2854
E-mail : webmaster@accu.or.jp URL : <http://www.accu.or.jp>